

日本神経学会 2026 年度「神経疾患に対するイノベーション実用化推進事業」概要
Promotion project of innovative implementation for neurological diseases

日本神経学会 将来構想委員会

【事業趣旨】

神経疾患に対する日本のアカデミア発のイノベーション実用化を推進することを目的として、日本神経学会会員以外に産や官などからも参加者を広く募り、教育プログラムとして「日本神経学会 産官学イノベーションスクール」を開催するとともに、日本神経学会の会員が保有する研究シーズ（学術研究の成果）の企業導出をサポートする。

【事業経費】

研究シーズ企業導出助成金として、採択者 1 名あたり 1,000,000 円（研究費）を支給

【事業スケジュール】

1. 応募希望調査（2025 年 10～11 月）

- 資格：日本神経学会会員
- 方法：日本神経学会学術大会の一般演題の登録に際し、登録システム上で本事業への応募希望調査フローに進み、必要事項（特許出願の有無や見込み、特許内容の概要、出願人、出願年月日、企業との共同研究の見込み等）を記入する。

2. 応募（2026 年 6～7 月頃）

学術大会の終了後に、応募希望者は日本神経学会将来構想委員会からの連絡を受け、所定の応募様式を用いて応募手続きを行う。また、同期間に日本神経学会会員を対象として、特許出願済みの研究シーズ（学術研究の成果）の公募も行う。学術大会の一般演題の登録時における応募希望の有無により、選考基準に差が生じることはない。

3. 選考（2026 年 8～9 月頃）

日本神経学会将来構想委員会の本事業担当メンバーの若干名にて、利益相反のある案件（所属機関が同一の案件を含む）を除いて投票を行い、投票数の多い案件を採択する（若干名）。なお、特許内容の公開可能な応募案件を優先して採択する。

4. 交付申請（2026 年 10～11 月頃）

採択者は、研究シーズ名、研究目的、研究実施計画、企業導出に向けた計画、本助成金の使途等を記載した交付申請書を作成し、日本神経学会に提出する。

5. 研究実施（2026 年 11 月頃～）

採択者は、交付された研究シーズ企業導出助成金を使用して、企業導出に向けた研究を実施する（研究費は採択の翌年度まで使用可能）。

6. 「日本神経学会 産官学イノベーションスクール」の開催（2026 年 11 月～2027 年 1 月頃）

イノベーション実用化の実例紹介、教育講演、トピックス講演、パネルディスカッション等に加え、本事業の採択者にはシーズ育成プレゼンテーションを行っていただき、学術発表の観点ではなくシーズ提案の趣旨で優れた発表になるよう、公開でのコーチングを受ける。

7. 報告（2028 年末頃）

採択者は、本事業の終了後、研究シーズ名、研究成果、特許出願や企業導出の進捗状況、本助成金の収支決算の各項目を記載した事業報告書を作成し、定める期日（採択の翌々年度）までに日本神経学会に提出する。

【期待される事業効果】

日本神経学会会員の研究シーズに対して、日本神経学会認定シーズのお墨付き効果を付与し、研究費のサポート及び発表のコーチング機会を提供することにより、採択者が研究シーズの企業導出活動を推進するインセンティブを向上させる。日本神経学会が、研究シーズのイノベーションを担う有力な団体として発展し、学術のみならず日本の産業振興にも貢献することが期待される。